14 成長企業 2011年8月8日(月) Fuji Sankei Business i.

アビー スマホ用アルミジャケット

ユーザー心くすぐる質感に自信

キラリ! わが社の商品・サービス

2004年に4人で創業したアビー（横浜市神奈川区）は、パソコン（PC）ケースの生産で成長を続けてきた。独自のアルミ加工技術、日本人の好みにあったデザインが国内の市場で強みを発揮したものだ。同社の執行役員の齋藤晃さん、医師敏幸さんは「設計、図面などの最初から100%国内で生産することが信条につながった」と胸を張る。

事業は順調に拡大、さらに成長するためには製品の守備範囲を広げなければならない。アルミの技術を生かした民生の生産や、PCケース作りで得たアイデアを盛り込み、ケーブルの取り外しができるパワーサプライ（電源機器）の開発に乗り出した。

しかし、やはり本業はモノを収めるケース。次は何を置うようにしたらいいか…。

これだ！ とヒットしたのがスマートフォン（高機能携帯電話）。アップルのiPhone（アイフォーン）とアンドロイド携帯の数モデル向けに「アルミジャケット」を送り出した。

アイフォーンは、見れば触れば欲しくなる質感とスタイルを誇るが、いざ自分のものになってみると、折り畳みの携帯などとは違って片手では扱いにくかったりする。

たとえば、携帯電話と一緒を置すためかアイフォーンにはストラップホールがない。インターネットには自分でストラップを取り付ける方法の提案がいくつもある。服やバッグのポケットから取り出したときに滑って落ちて破損したという報告や相談も多い。

ユーザー側の一般的な対策はシリコン製のケースだが、残念ながら、長持ちしない。

こうした市場環境を見透さず送り出したアルミジャケット。本体をがっちり守ったうえ、お気に入りのストラップも付けられる。PCケースの生産で培ったアルマイト処理技術で、スマートフォンユーザーの心をくすぐる質感を出せた自信もある。アンドロイドモデル用には11色、アイフォーン用には6色を用意した。高度なプラスト処理で傷がつきにくくなっている。

実用性とファッション性を備えたところが評価され、衣料・雑貨の大手セレクトショップで販売されるようになった。

いまのところの見込み違いは、売れ行きの苦戦。シリコン製のケースが数百円程度からなのに対し、アルミジャケットは最低価格が4980円という設定がユーザーを躊躇させるらしい。

携帯電話市場は「飽和」を指摘される一方、スマートフォンは出荷台数を伸ばしており、関連グッズの先行きも明るそう。アルミジャケットも「注文が増えれば生産が効率化され価格も下げられる」（斎藤さん）と期待している。

購入は同社HP（http://www.abee.co.jp）でも可能。（松本良一）

PCケース製作で培った技術を生かして開発したスマートフォンのアルミジャケット

日本ATM、長崎に拠点

カード会社の顧客管理支援

現金自動預払機（ATM）の監視事業を手がける日本ATM（東京都港区）は、クレジットカード会社の業務を支援する拠点を長崎県佐世保市に開設し、8月1日から業務を開始。これを弾みに業務支援サービスを強化し、2015年度をめどに50億円の売上高をめざす。

新設したのは「佐世保ATMオペレーションセンター（佐世保AOC）」で、カード会社の業務支援サービス拠点としては、北海道江別市に続く2拠点目。佐世保AOCの開業時には約80人のスタッフを配置し、2年後を目途に約200人に増やす。

佐世保AOCでは、クレジットカードの発行に必要な申込書を受け入れ顧客情報を入力・管理するほか、顧客データの保証業務などを手がける。

これを「カードエントリー業務」と呼び、同業務の運用を外部企業に委託する概算がカード業界で高まっている。同社は佐世保AOCを生かし、主に三菱UFJニコス（旧千代田区）の業務を後押ししていく。

東日本大震災を機に顧客サービスを非常時でも安定供給する責任もカード会社に問われている。これを踏まえ同社は、大規模災害の発生リスクが比較的小さい長崎を選んだという。将来的には、佐世保AOCにATM監視機能も持たせる計画だ。

長崎県佐世保市に開設し8月から業務を開始する「佐世保ATMオペレーションセンター」

E—LABO 関東中心に340校掲載

サッカースクール簡単検索

神奈川県内で学習塾を運営するE—LABO（東京都千代田区）は、全国のサッカースクールなどを検索できるサイト「Play Ground（通称プレグラ）」（http://p-ground.com/）を開設した。当面は無料でスクールを掲載し、認知度を高めた上で2012年から有料化する予定。サッカースクール情報を集めた専門サイトは業界で初めて。

地域別や沿線別などの細かい検索条件で絞り込み、抽出された候補スクールの特徴や募集対象年齢、月謝などを把握できる。希望のスクールが見つかった場合は、希望校が掲載画面からそのまま体験練習への申し込みや問い合わせも行える。また、5人制ミニサッカー「フットサル」のコート情報も検索できるようにした。サッカースクールの掲載数は現在約340校で、関東圏が中心だ。これを年内に1000校に引き上げることを目指す。有料サイトの運営計画は今後詰めるが、一校当たり月額5000～6000円でスクールを紹介することを想定しているという。

ワイン友遊

多種多様 あらゆるタイプの料理にマッチ

エルタ・ペジュさん㊥
（H・Bヴィンヤードオーナー）

ワイナリーは特殊な農業ビジネスで、ブドウを育て、ワインを造り、即しから小売りまで、あらゆることをすべて自分たちでしなくてはなりません。

農作業やワイン造りで28六時中働きながら、今までにないワインを造るにはどうしたらよいのか、そればかり考えていました。私はお酒が飲めなかったのですが、この仕事を始めてから訓練し、今はワインを楽しめるようになりました。

よくフランスやイタリアのワインとの違いを聞かれますが、ワインはその土地に合う食生活に根ざしていて、料理とどう釣り合うかが決め手になります。

ナパでは、さまざまなタイプのワインが生産され、手頃な値段でおいしいワインが楽しめる

私たちがワイナリーを始めた80年代、ナパのワインは重い料理に合うリッチなフルボディタイプが主流でしたが、近頃は人気の軽い料理に合わせてワインも軽めが好まれます。ナパのワインは驚くほど多種多様で、あらゆるタイプの料理に対応できますので、総合的にみるとワイン造りではナパが世界一だと思います。

小さな一角でさまざまなタイプのワインが生産されていて、手頃な値段でおいしいワインが買えるのです。最近気付いたのですが、イタリアやオーストリアのワイナリーがナパのスタイルをまねているようです。

エルタ・ペジュ。H・Bヴィンヤードオーナー。「H・Bヴィンヤード」は、数々の賞の連続受賞を成し遂げたナパ有数の名門ワイナリー。天・トニーとワイナリーを経営するエルタ・ペジュはオーストリアに生まれ南米ベネズエラで育つ。1982年、夫のトニーとアメリカに渡り、ロサンゼルスで花屋と店3軒を経営するまでになった。82年、成功していた事業を捨て、夫の誘いでナパに移り、一からワイナリーを立ち上げる。45haの敷地面積から毎年3万5000本のワインが生産され、総生産量の80%がワイナリーのテイスティングルームから直接消費者に販売されている。クオリティーの高さだけでなく、独特の優れたマーケティングで成功をおさめているワイナリー。「H・Bヴィンヤード」の名称は、エルタの旧姓のイニシャル「Herta Bebensky」からとったもの。

90 PLUS WINE CLUB

90 PLUS WINE CLUB ～会員制ワインクラブ～

ナパのプレミアム・ワインを現地の価格でご提供し、豊かな自然に恵まれたナパ・ヴァレーの素晴らしいライフスタイルをご提案します。

www.the90pluswineclub.jp

2011年8月8日付け
フジサンケイビジネスアイ掲載

E—LABO 関東中心に340校掲載

サッカースクール簡単検索

神奈川県内で学習塾を運営するE—LABO（東京都千代田区）は、全国のサッカースクールなどを検索できるサイト「Play Ground（通称プレグラ）」（http://p-ground.com/）を開設した。当面は無料でスクールを掲載し、認知度を高めた上で2012年から有料化する予定。サッカースクール情報を集めた専門サイトは業界で初めて。

地域別や沿線別などの細かい検索条件で絞り込み、抽出された候補スクールの特徴や募集対象年齢、月謝などを把握できる。希望のスクールが見つかった場合は、希望校が掲載画面からそのまま体験練習への申し込みや問い合わせも行える。また、5人制ミニサッカー「フットサル」のコート情報も検索できるようにした。サッカースクールの掲載数は現在約340校で、関東圏が中心だ。これを年内に1000校に引き上げることを目指す。有料サイトの運営計画は今後詰めるが、一校当たり月額5000～6000円でスクールを紹介することを想定しているという。